

カシノナガキクイムシによる広葉樹枯死被害について

林業試験場

研究のねらい

平成11年秋に東牟婁郡内の瀨^{ひがしむろ} 峡と那智山^{どろきょう なち}を中心に、カシやシイといったドングリの木が集団的に枯れるという被害が発生しました（写真1）。これはクイムシの一種の『カシノナガキクイムシ』（以下カシナガ）が、幹に穴を開けてもぐり込むことで発生する被害だとわかりました（写真2）。今回、これまで行ってきた調査の中から、被害実態に関する調査の一部を紹介します。

研究の成果

- ①木の幹にカシナガの開けた坑道から広がった菌(*Raffaelea quercivora*)による通水障害が枯死原因とわかりました。
- ②平成14年時点では全体の枯死被害本数は減っていますが、これまで被害の見られなかった新たな地域に被害が拡大してきています（図1）。
- ③この地域の主な被害木はアラカシ、ウバメガシ、シイ類、コナラで、直径が太いほど被害を受けやすい傾向がみられました（図2）。



写真1 集団的な枯死

成果の活用面・留意点

- ①コナラの枯死率が高いため、コナラの多い県中～北部への拡大が懸念されます。
- ②和歌山県に適合する有効な防除方法の確立を目指していきます。



[左木・右木]

写真2 カシナガ（体長5mm）と被害木

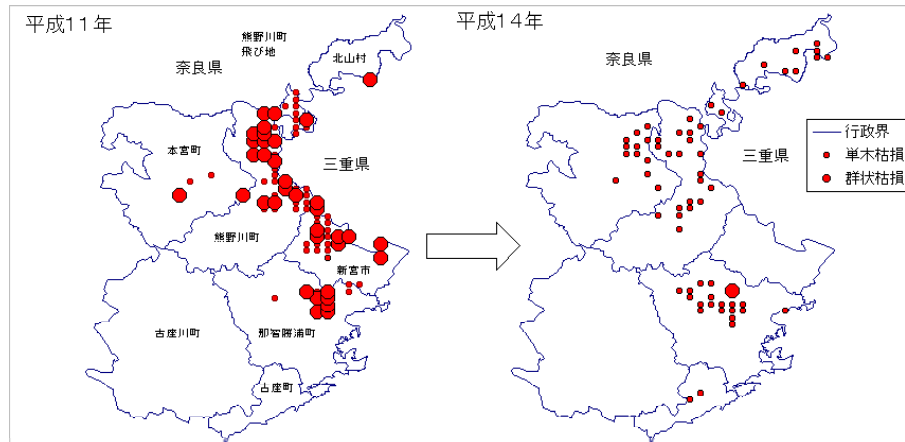


図1 枯死被害分布状況の推移（東牟婁郡）

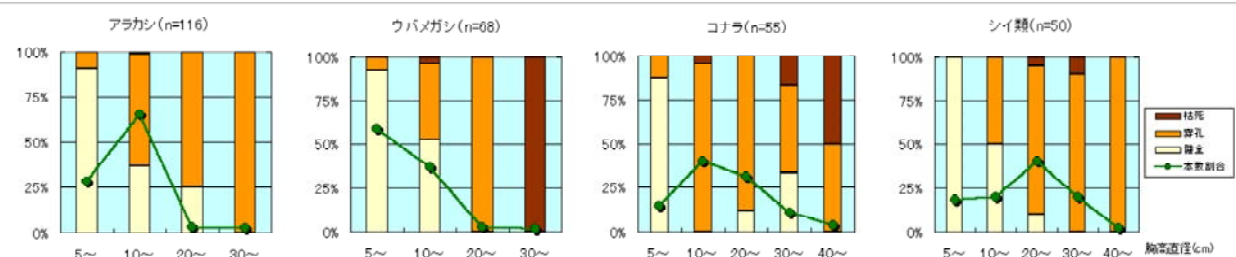


図2 主な被害樹種の胸高直径別被害状況

（問い合わせ先：0739-47-2468）